

はじめに

目次

一般的に品質を保証するためには顧客の期待に応える必要があり、品質保証活動は、品質保証活動の計画、実施、評価、改善のサイクルを繰り返すことで、品質保証活動の効果を高めることができます。品質保証活動の計画は、品質保証活動の目的、範囲、責任、役割、資源などを明確にし、品質保証活動の実施は、品質保証活動の計画に基づき、品質保証活動の責任、役割、資源を適切に配分し、品質保証活動の評価は、品質保証活動の計画に基づき、品質保証活動の効果を評価し、品質保証活動の改善は、品質保証活動の評価に基づき、品質保証活動の計画、実施、評価、改善のサイクルを繰り返すことで、品質保証活動の効果を高めることができます。

島根原子力発電所 品質保証活動の実施状況

(平成26年度)

1. 品質保証活動の概要

1.1 品質保証活動の目的

1.2 品質保証活動の範囲

1.3 品質保証活動の責任

1.4 品質保証活動の役割

1.5 品質保証活動の資源

2. 品質保証活動の実施状況

2.1 品質保証活動の計画

2.2 品質保証活動の実施

2.3 品質保証活動の評価

2.4 品質保証活動の改善

3. その他

3.1 品質保証活動の推進

3.2 品質保証活動の啓発

3.3 品質保証活動の連携

3.4 品質保証活動の報告

3.5 品質保証活動の記録

3.6 品質保証活動の検証

3.7 品質保証活動の検証結果

3.8 品質保証活動の検証結果の活用

3.9 品質保証活動の検証結果の公表

3.10 品質保証活動の検証結果の活用

はじめに

一般的に品質を保証するためには顧客の期待あるいは要求を具体化するための組織的な仕組みと運用が必要であり、この仕組みと運用のもとになるのが国際基準の ISO9001「品質マネジメントシステム」です。原子力発電所の品質保証は、この ISO9001 をもとにして制定された「原子力発電所における安全のための品質保証規程」(JEAC4111) に基づき実施しています。

これらの規格に従って品質マネジメントシステムの仕組みを構築し、管理・運用して継続的に改善することが求められています。具体的な取り組みとしては「経営者の責任」(資源の運用管理を含む) = Plan, 業務の計画および実施 = Do, 評価および改善 = Check, Action の PDCA のサイクルを回し継続的改善を図っています。また、この品質マネジメントシステムにより顧客 (JEAC4111 では国民、原子力安全規制などと定義) からの要求事項のインプットから始まり、業務の実施を介して「原子力安全」を実現する仕組みとして、この品質マネジメントシステムを用いています。(参考資料「原子力発電所の安全確保のための品質マネジメントシステムのモデル」参照)

本報告は、「品質マネジメントシステム」に基づき島根原子力発電所で実施した品質保証活動について報告するものです。

なお、「島根原子力発電所における点検不備に係る再発防止対策および実施状況」については、当社ホームページ (<http://www.energia.co.jp/tenken/index.html>) を参照願います。

また、平成23年3月11日に発生した、東北地方太平洋沖地震による津波対策に起因する福島第一原子力発電所の事故を踏まえた「当社原子力発電所の対応」については当社ホームページ (<http://www.energia.co.jp/earthquake/index.html>) を参照願います。

目 次

1. 品質方針および品質目標	1
(1) 品質方針	1
(2) 品質目標	2
2. 品質保証活動の計画および実施	4
(1) 品質保証活動の実施状況	4
(2) 島根原子力発電所 品質保証活動に係る体制	5
3. 評価および改善	5
(1) 内部監査の実施状況	5
(2) 保安検査および定期事業者検査, 定期安全管理審査の実施状況	7
(3) 不適合処置, 是正処置の状況	10
(4) 予防処置の状況	11
4. マネジメントレビュー	12
(1) 平成26年6月に実施したマネジメントレビューのアウトプット	12
(2) 平成27年2月に実施したマネジメントレビューのアウトプット	13
5. 教育・訓練	13
(1) 保安規定に基づく教育訓練	13
(2) 技術教育訓練	13
6. その他	13
(1) 定期検査時の品質保証に係る意識高揚策	13
(2) 協力会社との情報共有活動	14
別紙-1: 島根原子力発電所 品質保証活動に係る体制	17
別紙-2: 不適合・是正処置の状況	18
別紙-3: 平成26年度 島根原子力発電所の教育訓練実績(保安教育)	20
別紙-4: 平成26年度 島根原子力発電所技術教育訓練実績表	22
参考資料: 原子力発電所の安全確保のための品質マネジメントシステムのモデル	23

1. 品質方針および品質目標

(1) 品質方針

品質方針（「原子力品質方針」、「保守管理の実施方針」および「原子力安全文化醸成に関する基本方針」の総称。）は、組織としての品質（原子力安全）にかかわる全般的な方向付けとなるものであり、トップマネジメント（社長）が策定します。

この度、福島第一原子力発電所事故の反省を踏まえ、リスクマネジメントの強化を図ることを目的に、「原子力品質方針」および「原子力安全文化醸成に関する基本方針」について見直しを行いました（H26. 6. 13）。

なお、平成26年度下期において、品質方針の見直しはありませんでした。

a. 原子力品質方針

原子力品質方針	
年度当初の原子力品質方針	見直し後の原子力品質方針（下線部が変更箇所）
<p>原子力発電所の運営、建設にあたっては、法令・規制要求等のルールを遵守することはもとより、現場、現物、現実を重視する3現主義を実践し、確実な品質保証活動を通じて原子力の安全達成をより強固にするとともに、公正・透明な業務運営を通じて、お客さまからの理解と信頼の獲得を目指す。</p> <p>1. 必要な資源を確保し、自らの役割と責任を自覚して、原子力の安全を最優先に品質保証活動を積極的に推進する。</p> <p>2. 常に問いかける姿勢を持って、品質マネジメントシステムを継続的に改善する。</p> <p>3. 教育・訓練を確実に実施して、技術継承を図るとともに、個人および組織全体の建設、運転・保守、緊急時の対応能力の向上を目指す。</p>	<p>原子力発電所の運営・建設にあたっては、法令・規制要求等のルールを遵守することはもとより、現場、現物、現実を重視する3現主義を実践し、<u>確実な品質保証活動を通じて、世界最高水準の原子力安全を目指す</u>とともに、公正・透明な業務運営を通じて、お客さまからの理解と信頼の獲得を目指す。</p> <p>1. 必要な資源を確保し、自らの役割と責任を自覚して、<u>原子力安全を最優先に品質保証活動を積極的に推進する。</u></p> <p>2. <u>原子力安全に係る知見や情報を収集してリスク評価を行い、必要な対策を実施して、原子力安全の向上を目指す。</u></p> <p>3. 常に問いかける姿勢を持って、品質マネジメントシステムを継続的に改善する。</p> <p>4. 教育・訓練を確実に実施して、技術継承を図るとともに、個人および組織全体の建設、運転・保守、緊急時の対応能力の向上を目指す。</p>

b. 保守管理の実施方針

保守管理の実施方針
<p>原子力に従事する誇りと責任を持ち、島根原子力発電所の保守管理の不備を深く反省し、確実な品質保証活動を通じて原子力安全最優先で保守管理を実施する。</p> <p>1. 常に問いかける姿勢を持ち、品質マネジメントシステムを人から押し付けられたものでなく、自分たちのルールとして改善を行う。</p> <p>2. 経営層、電源事業本部と発電所および発電所各課間での意思疎通を図り、報告する文化を育て、風通しの良い職場を創る。</p> <p>3. 関係会社、協力会社と協働し一体となって、より高度な保守管理を達成する。</p> <p>4. 運転開始後40年を経過した島根1号機については、長期保守管理方針を反映した保全計画を確実に実施していく。</p>

c. 原子力安全文化醸成に関する基本方針

原子力安全文化醸成に関する基本方針	
年度当初の原子力安全文化醸成に関する基本方針	見直し後の原子力安全文化醸成に関する基本方針（下線部が変更箇所）
<p>原子力発電所の運営・建設における活動の基礎となる原子力安全文化の醸成に積極的に取り組み、原子力の安全を一層確実なものとしていく。</p> <p>特に、平成22年3月に判明した島根原子力発電所の点検不備問題の反省を踏まえ、地域のみならず協力会社を含めた現場の声に積極的に耳を傾け、「報告する文化」および「常に問いかける姿勢」の改善に重点的に取り組む。</p> <p>とりわけ、平成23年3月に発生した東日本大震災による原子力発電所事故を重く受け止め、「常に問いかける姿勢」を忘れず、安全性の弱点はないか、安全性向上の余地はないかを常に考えることにより、原子力安全を最優先とする文化の浸透を図る。</p> <p>【コンプライアンス経営推進宣言】</p> <p>1. 法令等の遵守</p> <p>すべての事業活動において、法令・ルールおよびその精神を遵守することはもとより、倫理観に裏打ちされた業務運営を強力に推進する。</p> <p>2. 業務遂行上関連する法令のみならず規程、準則等の社内ルールを遵守する。</p> <p>【原子力安全文化醸成方針】</p> <p>1. 安全最優先の組織風土</p> <p>安全最優先の価値観を共有した組織風土を創ります。</p> <p>2. 継続的な改善活動</p> <p>組織が一体となって、原子力安全文化醸成に係る改善活動に継続的に取り組みます。</p> <p>3. コミュニケーションの充実</p> <p>良好なコミュニケーションを保ち、風通しが良い職場を創ります。</p>	<p>原子力発電所の運営・建設における活動の基礎となる原子力安全文化の醸成に積極的に取り組み、原子力の安全を一層確実なものとしていく。</p> <p>特に、平成22年3月に判明した島根原子力発電所の点検不備問題の反省を踏まえ、地域の<u>皆さま</u>や協力会社を含めた現場の声に積極的に耳を傾け、「報告する文化」および「常に問いかける姿勢」の改善に重点的に取り組む。</p> <p>とりわけ、平成23年3月に発生した東日本大震災による原子力発電所事故を重く受け止め、「常に問いかける姿勢」を忘れず、<u>原子力に係るリスクを常に意識して</u>、安全性の弱点はないか、安全性向上の余地はないかを<u>考える</u>ことにより、原子力安全を最優先とする文化の浸透を図る。</p> <p>【コンプライアンス経営推進宣言】</p> <p>1. 法令等の遵守</p> <p>すべての事業活動において、法令・ルールおよびその精神を遵守することはもとより、倫理観に裏打ちされた業務運営を強力に推進する。</p> <p>2. 業務遂行上関連する法令のみならず規程、準則等の社内ルールを遵守する。</p> <p>【原子力安全文化醸成方針】</p> <p>1. 安全最優先の組織風土</p> <p>安全最優先の価値観を共有した組織風土を創ります。</p> <p>2. 継続的な改善活動</p> <p>組織が一体となって、原子力安全文化醸成に係る改善活動に継続的に取り組みます。</p> <p>3. コミュニケーションの充実</p> <p>良好なコミュニケーションを保ち、風通しが良い職場を創ります。</p>

(2) 品質目標

品質目標（「原子力品質目標」、「保守管理目標」および「原子力安全文化醸成活動目標」の総称。）は、社長が定めた品質方針を具体的に展開するため、毎年度初めに島根原子力発電所において発電所長が策定します。

なお、平成26年度において、品質目標の見直しはありませんでした。

a. 原子力品質目標

原子力品質目標
<p>1. 島根1・2号機の運転開始および3号機の燃料装荷に向けた確実な保安業務の実施</p> <p>2. 新規制基準への対応</p>

原子力品質目標

3. 原子力安全維持・向上施策の検討・実施
4. 確実な不適合管理（情報公開含む）・是正処置，予防処置の実施
5. 保全内容の適正化
6. 原子力の最大限の活用
7. 技術・技能継承への取組み強化
8. 3号機工事進捗状況に応じた現場クリーン化の徹底

b. 保守管理目標

保守管理目標

1. 島根1・2号機の運転開始および3号機の燃料装荷に向けた確実な保安業務の実施
2. 新規制基準への対応
3. 保全内容の適正化
4. 原子力の最大限の活用

c. 原子力安全文化醸成活動目標

原子力安全文化醸成活動目標

1. コンプライアンス意識向上のための話し合い研修の実施
2. 個人情報保護・情報セキュリティ研修会の実施
3. 安全文化講演会または研修会への参加
4. リーダーシップ研修会の実施
5. 法令・規制要求事項等のルール遵守
6. シビアアクシデント関係手順書の整備
7. 業務改善活動の定着
 - ・業務改善情報の発信（事例紹介，ワンポイントアドバイス等）
 - ・業務改善提案の研修会開催
8. OJT実施のあり方についての検討（現状の課題を含み技術技能強化チーフと連携して検討）
9. 教育訓練ニーズを把握する仕組みの確立
10. 不適合処置の迅速化
 - ・発生から不適合判定検討会への付議までの期間（1ヵ月超過情報）
11. 不適合・是正処置状況の確認およびフォロー
12. 他プラント情報等の的確な水平展開（予防処置検討会検討結果の保安運営委員会での定期的な審議）
13. 予防処置状況（保安活動）の確認
14. ヒューマンエラーによる不適合事象の周知および改善活動
15. 収集したヒヤリハット情報の周知
16. 作業前ミーティングの確実な実施
17. ヒューマンエラー防止検討会の実施
18. 作業安全ヒヤリ・ハット事例の収集および周知
19. 業務に関する知識・ノウハウ研修会の実施
20. 職場話し合い研修の受講
21. 行動基準の策定・実践
22. 行動基準の中間振り返り
23. 定例訪問先への同行
24. 見学会の対応・同席
25. 島根原子力本部が計画する「地域奉仕活動・地元主催行事」への参加

原子力安全文化醸成活動目標

- 26. 地元意見の職場共有
- 27. 経営層との意見交換会への参加
- 28. 表彰事例の紹介

2. 品質保証活動の計画および実施

(1) 品質保証活動の実施状況

発電所で策定した原子力品質目標および保守管理目標を達成するため、それぞれの目標に対する具体的方策を発電所長が策定し、計画に基づいて業務を実施しました。

なお、原子力安全文化醸成活動については、上記1.(2)c. 原子力安全文化醸成活動目標に述べる原子力安全文化醸成活動目標そのものを具体的方策として発電所長が策定し、計画に基づいて業務を実施しました。

原子力品質目標および保守管理目標	具体的方策（主な取り組み）
1. 島根1・2号機の運転開始および3号機の燃料装荷に向けた確実な保安業務の実施	<ul style="list-style-type: none"> (1) 特別な保全計画に基づく保全活動および3号設備の維持管理の実施 (2) 1・2号機点検計画表に基づく年度管理機器の確実な点検実施 (3) 原子力災害対応資機材の点検実施 (4) 原子力災害対応訓練の実施 (5) 保安検査への的確な対応 (6) 保安検査での改善処置のフォローアップ (7) 保安調査での保安検査官気付きへの的確な対応 (8) 定期事業者検査におけるコメント事項の的確な対応 (9) 運転管理 <ul style="list-style-type: none"> ・異常徴候の早期発見 ・プラント停止中の確実な運転管理 (10) 放射性廃棄物管理 <ul style="list-style-type: none"> ・固体廃棄物貯蔵所保管裕度の確保 ・放射性物質の確実な放出管理 ・クリアランス適用設備の設置 (11) 1号機長期停止用点検計画および3号機点検計画作成
2. 新規制基準への対応	<ul style="list-style-type: none"> (1) 再起動・運転開始要件となる新規制基準への対応実施 (2) 猶予期間のある新規制基準への適切な対応 (3) シビアアクシデント関係手順書の整備 (4) 使用前検査への適切な対応 (5) 溶接事業者検査対象工事の確実な実施 <ul style="list-style-type: none"> ・溶接事業者検査、安全管理審査の確実な実施
3. 原子力安全維持・向上施策の検討・実施	<ul style="list-style-type: none"> (1) ピアレビュー改善検討項目に対する適切な対応 (2) スタートアップピアレビュー結果への適切な対応 (3) リスクモニター導入準備
4. 確実な不適合管理（情報公開含む）・是正処置、予防処置の実施	<ul style="list-style-type: none"> (1) 不適合処置の迅速化 (2) 不適合管理情報の公開 (3) 不適合事象の分析・評価 (4) 不適合・是正処置状況の確認およびフォロー (5) 他プラント情報等の的確な水平展開

原子力品質目標および 保守管理目標	具体的方策（主な取り組み）
	(6) 予防処置状況（保安活動）の確認
5. 保全内容の適正化	(1) 保全方式（時間基準保全から状態基準／事後保全）または点検頻度の見直しの実施
6. 原子力の最大限の活用	(1) 予防保全工事の計画的な実施 (2) 島根1号機の長期保守管理方針に基づく確実な保全の実施 (3) 高経年化技術評価に向けた確実な対応 (4) 島根2号機の蒸気タービン取替工事に向けた確実な対応
7. 技術・技能継承への取り組み 強化	(1) OJT実施のあり方についての検討 (2) 教育訓練ニーズを把握する仕組みの確立 (3) エネルギアマスターの効果的な活用 (4) 技術・技能継承方策の展開
8. 3号機工事進捗状況に応じた現場クリーン化の徹底	(1) 3号機クリーンプラント活動の継続実施と評価

【具体的方策の実施状況の総括】

平成26年度の品質保証活動の実施結果は、策定した全ての品質目標について達成し、品質方針に沿った活動が適切に実施されていると評価しています。

(2) 島根原子力発電所 品質保証活動に係る体制

島根原子力発電所 品質保証活動に係る体制を別紙-1に示します。

3. 評価および改善

社内の内部監査や国の保安検査などにより、品質保証活動の実施状況について定期的に確認し必要により改善を図っています。

また、社内で実施する不適合管理や是正処置、予防処置を適切に行うことにより、設備の安全性向上や業務改善を図っています。

(1) 内部監査の実施状況

a. 原子力安全管理監査

原子力部門とは別組織の社内監査組織（考査部門）※1により、品質マネジメントシステム全般の監査を行いました。（※1別紙-1参照）

【原子力安全管理監査1回目】

実施時期	平成26年8月4日～6日
監査テーマ	①品質マネジメントシステム(QMS)の運営状況 ②島根原子力発電所の新規制基準に基づく重大事故等対策の実施状況 ③原子力安全維持・向上の取り組みの実施状況
監査結果	①品質マネジメントシステム(QMS)の運営状況 QMS文書に従って業務を実施していることを確認した。 [良好事例4件] ・若手運転員のニーズを踏まえた知識・技能向上を目的とした当社運転員と委託先運転員の相互教育の実施 ・教育・訓練実施時に作成する報告書の明確化 ・業務実施計画書（年度報告まとめ含む）への品質目標の達成結果（達成、

	<p>未達)の明確な記載</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若年層を対象としたプラント知識向上に関する課内教育の実施 〔不適合事項1件〕 ・力量認定の確実な実施 <p>②島根原子力発電所の新規制基準に基づく重大事故等対策の実施状況 新規制基準に基づく重大事故等対策を業務実施計画書に従って計画的に実施していることを確認した。 〔良好事例2件〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規制基準適合性に係る島根3号機設置許可申請書作成に関する要員の知識の向上 ・島根3号機許認可申請に関する確実な業務の実施および進捗管理 <p>③原子力安全維持・向上の取り組みの実施状況 原子力安全維持・向上の取り組みを業務実施計画書に従って計画的に実施していること、島根原子力発電所を対象とした一般社団法人原子力安全推進協会によるピアレビューにより抽出された要改善事項の改善計画を取りまとめ、その改善計画に従って活動していることを確認した。</p>
--	--

【原子力安全管理監査2回目】

実施時期	平成26年10月14日～17日
監査テーマ	<p>①品質マネジメントシステム(QMS)の運営状況</p> <p>②島根原子力発電所の新規制基準に基づく重大事故等対策の実施状況</p> <p>③原子力安全維持・向上の取り組みの実施状況</p>
監査結果	<p>①品質マネジメントシステム(QMS)の運営状況 QMS文書に従って業務を実施していることを確認した。 〔良好事例2件〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雑固体廃棄物処理設備電動機の保全方式の適正化への取り組み ・点検手入れ前データ評価による手動弁の状態基準保全化による保全の最適化への取り組み <p>②島根原子力発電所の新規制基準に基づく重大事故等対策の実施状況 新規制基準に基づく重大事故等対策を業務実施計画書に従って計画的に実施していることを確認した。 〔良好事例2件〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移動式代替熱交換設備用配管敷設時間の短縮による事故対応能力の向上 ・免震重要棟新築工事における懸案事項に着目した適切な工程管理 <p>③原子力安全維持・向上の取り組みの実施状況 原子力安全維持・向上の取り組みを業務実施計画書に従って計画的に実施していること、島根原子力発電所を対象とした一般社団法人原子力安全推進協会によるピアレビューにより抽出された要改善事項の改善計画を取りまとめ、その改善計画に従って活動していることを確認した。</p>

〔特記事項〕

○現場監査の充実(発電所駐在による現場確認※2)

審査部門2名が発電所に約4週間(9/24～10/17)駐在して、現場状況や会議体の運営状況等を確認した上で監査(10/14～10/17)を実施し現場監査の充実を図りました。

※2 現場駐在型監査

平成22年度から、「島根原子力発電所における点検不備問題」を踏まえた審査部門の内部監査方法の改善として、発電所の運営状況等を詳細に情報収集してから監査が実施できるように、審査

部門2名が1ヶ月程度発電所に駐在し、現場状況や会議体の運営状況等を確認する取り組みを行っています。

b. 実施部門の内部監査

原子力部門で監査チームを構成し、保安管理業務（運転管理、燃料管理、放射性廃棄物管理、放射線管理、保守管理、緊急時（非常時）の措置等に関する業務）と原子力安全文化醸成活動の計画および実施状況を中心に監査を行いました。

【実施部門内部監査】

実施時期	平成26年10月14日～16日
監査テーマ	品質マネジメントシステムの定着と継続的改善
監査結果	<p>監査基準の JEAC4111 - 2009, 原子力品質保証細則, 基本要領, 島根原子力発電所で定めた要領および手順書に基づき, 適切に品質保証活動が実施されていることを確認した。</p> <p>[良好事例2件]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「状態基準保全」採用に向けた状態監視の実施 ・静的触媒式水素処理装置 (PAR) 現場据え付け後の養生 <p>[不適合事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なし

(2) 保安検査および定期事業者検査, 定期安全管理審査の実施状況

a. 保安検査

原子力規制庁(国)の検査官により、原子炉施設の運転に関し保安のために必要な事項を定めた保安規定の遵守状況について定期的(年4回)に検査が行われています。

【第1回 保安検査】

実施時期	平成26年6月9日～平成26年6月20日
基本検査項目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 東京電力(株)福島第一原子力発電所事故を踏まえた緊急安全対策等の実施状況 2. 保守管理の実施状況 3. 安全文化醸成活動の実施状況 4. 教育訓練の実施状況 5. 放射線管理の実施状況(抜き打ち検査) 6. 不適合管理の実施状況(抜き打ち検査) 7. 保全区域管理の実施状況(抜き打ち検査)
保安検査結果	<p>保安検査結果については、原子力規制委員会ホームページで公開されている以下の報告書を参照願います。</p> <p>https://www.nsr.go.jp/data/000045515.pdf</p>
違反事項 (違反1/違反2/違反3)	なし

【第2回 保安検査】

実施時期	平成26年9月1日～平成26年9月12日
基本検査項目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 東京電力(株)福島第一原子力発電所事故を踏まえた緊急安全対策等の実施状況

	<ul style="list-style-type: none"> 2. 保守管理の実施状況 3. マネジメントレビューの実施状況 4. 内部監査の実施状況 5. 消火活動体制の整備状況 (抜き打ち検査) 6. 運転管理の実施状況 (抜き打ち検査) 7. 文書・記録の保管状況 (抜き打ち検査)
保安検査結果	<p>保安検査結果については、原子力規制委員会ホームページで公開されている以下の報告書を参照願います。</p> <p>https://www.nsr.go.jp/data/000045534.pdf</p>
違反事項 (違反1/違反2/違反3)	なし

【第3回 保安検査】

実施時期	平成26年12月1日～平成26年12月12日
基本検査項目	<ul style="list-style-type: none"> 1. 東京電力(株)福島第一原子力発電所事故を踏まえた緊急安全対策等の実施状況 2. 保守管理の実施状況 3. 放射線管理の実施状況 4. 予防処置の実施状況 5. 主任技術者の職務等に係る実施状況 (抜き打ち検査) 6. 施工管理の実施状況 (抜き打ち検査) 7. 運転管理の実施状況 (抜き打ち検査)
保安検査結果	<p>保安検査結果については、原子力規制委員会ホームページで公開されている以下の報告書を参照願います。</p> <p>https://www.nsr.go.jp/data/000094852.pdf</p>
違反事項 (違反1/違反2/違反3)	なし

【第4回 保安検査】

実施時期	平成27年2月23日～平成27年3月6日
基本検査項目	<ul style="list-style-type: none"> 1. 東京電力(株)福島第一原子力発電所事故を踏まえた緊急安全対策等の実施状況 2. 保守管理の実施状況 3. 原子力安全文化醸成活動の実施状況 (本社検査を含む) 4. マネジメントレビューの実施状況 (本社検査を含む) 5. 予防処置の実施状況 6. 放射性液体廃棄物の放出管理状況 (抜き打ち検査) 7. 原子力発電保安委員会の運営状況 (本社検査・抜き打ち検査) 8. 保安に関する記録に係る作成保存状況 (抜き打ち検査)
保安検査結果	<p>保安検査結果については、原子力規制委員会ホームページで公開されている以下の報告書を参照願います。</p> <p>https://www.nsr.go.jp/data/000106571.pdf</p>
違反事項 (違反1/違反2/違反3)	なし

b. 定期事業者検査および定期安全管理審査の実施状況

1号機：第29保全サイクル^{※1}（H22.11.8～継続検査中）

2号機：第17保全サイクル^{※1}（H24.1.27～継続検査中）

※1：保全サイクルとは、定期検査開始日（発電機解列日）から次回定期検査開始日（発電機解列日）の前日までの期間をいう。

○定期事業者検査

定期事業者検査は、法律（核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律^{※2}）で規定する施設（特定発電用原子炉施設）の技術基準への適合性を電気事業者（電力会社）が定期的に確認する検査をいいます。

※2：H25.7.7までは、電気事業法

平成26年度の定期事業者検査の実績は次のとおりです。

	定期事業者検査の実施状況 ^{※3, 4}	検査結果 ^{※5}
1号機 (第29保全サイクル)	クラスⅠ： 0件（ 0件） クラスⅡ： 0件（ 44件） クラスⅢ： 0件（105件）	—（合格）
2号機 (第17保全サイクル)	クラスⅠ： 0件（ 0件） クラスⅡ： 0件（ 47件） クラスⅢ： 0件（ 85件）	—（合格）

※3：定期事業者検査の実施状況欄の（ ）は、当該保全サイクル期間（1号機：H22.11.8～H27.3.31まで、2号機：H24.1.27～H27.3.31まで）の全件数を表す。

※4：クラスⅠ 原子力安全の確保の観点から特に重要な定期事業者検査

クラスⅡ 原子力安全の確保の観点から重要な定期事業者検査

クラスⅢ 上記以外の定期事業者検査

※5：検査結果欄の（ ）は、当該保全サイクル期間（1号機：H22.11.8～H27.3.31まで、2号機：H24.1.27～H27.3.31まで）の全件数に対する検査結果を表す。

○定期安全管理審査

定期安全管理審査は、電気事業者（電力会社）が実施する定期事業者検査の実施体制およびその検査が適切に行われていることを、原子力規制委員会^{※5}が確認する審査をいいます。

※5：平成26年2月28日までは独立行政法人原子力安全基盤機構が確認

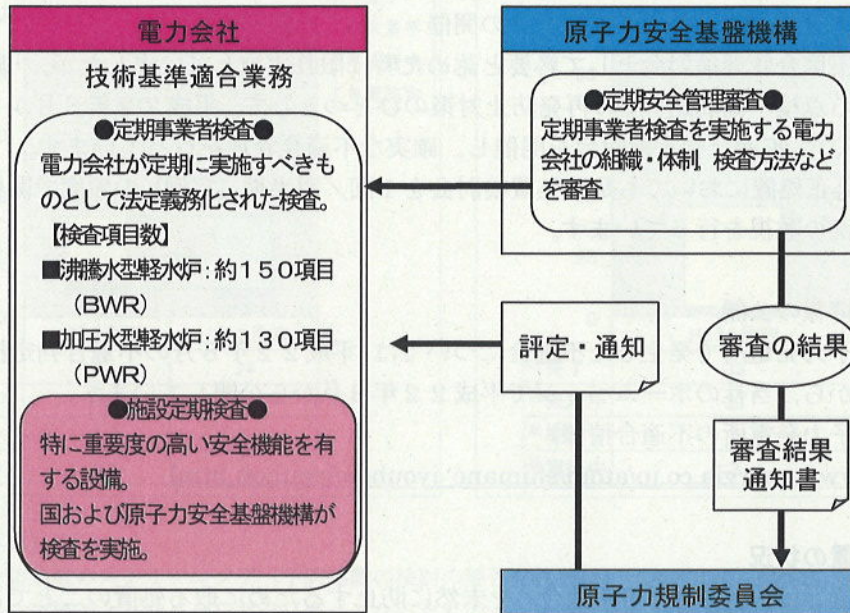
平成26年度の定期安全管理審査の実績は次のとおりです。

	定期安全管理審査の実施状況 ^{※6}	審査結果
1号機 (第29保全サイクル)	審査件数： 0件（16件） 【内訳】実地審査：0件（ 5件） 文書審査：0件（11件）	審査継続中
2号機 (第17保全サイクル)	審査件数： 0件（ 4件） 【内訳】実地審査：0件（ 1件） 文書審査：0件（ 3件）	審査継続中

※6：定期安全管理審査の実施状況欄の（ ）は、当該保全サイクル期間（1号機：H22.11.8～H27.3.31まで、2号機：H24.1.27～H27.3.31まで）の全件数を表す。

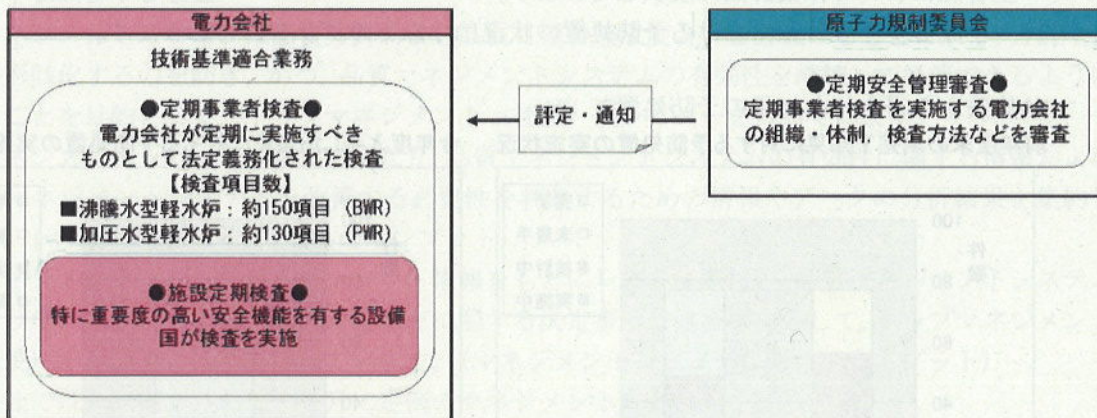
<参考>

定期事業者検査と定期安全管理審査の関係
《平成26年2月28日まで》



定期事業者検査制度の流れ

《平成26年3月1日以降》



定期事業者検査制度の流れ

(3) 不適合処置、是正処置の状況

要求事項に適合しない状態(不適合)が認められた時は、その設備・機器を誤って使用したり、誤った手順書などを使用しないために、識別するとともに管理を確実にを行っています。

不適合管理では、まず不適合処置(要求事項に適合した状態に戻す処置)を行い、不適合が発生した原因を調査し、さらに必要により是正処置(同じ原因で同じ不適合を発生させないための再発防止)を図ることとしています。

「島根原子力発電所における点検不備問題」により改善した不適合管理プロセス(懸案事項や工事中の不具合など全ての不適合事象を不適合判定検討会に持ち込み、不適合管理の要否、不適合管理グレード等を決定する)を確実に実行し、不適合判定検討会や是正処置検討会などを活用

し、不適合処置や是正処置の向上に努めています。

なお、平成27年3月末における不適合処置・是正処置の状況は別紙-2のとおりです。

a. 不適合判定検討会、是正処置検討会の開催

従来は不適合管理検討会として必要と認められた時に限り実施していましたが、「島根原子力発電所における点検不備問題」での再発防止対策のひとつとして、平成22年8月から原則毎日（休祭日を除く）、不適合判定検討会を開催し、確実な不適合管理を行っています。

また、是正処置においても是正処置検討会を1回/四半期（定例）の頻度で開催し、是正処置の進捗状況の監視を行っています。

b. 不適合情報の公開

島根原子力発電所で発生した不適合については、平成22年8月の不適合判定検討会で審議されたものから、当社のホームページで平成22年9月から公開しています。

（島根原子力発電所の不適合情報）

http://www.energia.co.jp/atom/shimane_jyouhou/jyouhou.html

（4）予防処置の状況

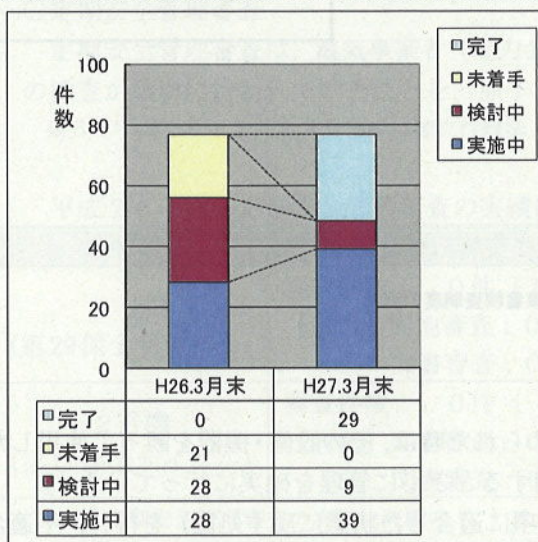
予防処置とは「起こり得る不適合」を未然に防止するために行う処置のことであり、次の2つの知見から得られる情報をもとに当社の状況を調査し、必要により予防処置を図ることとしています。

当社設備への反映については、社内の予防処置検討会等で審議し、必要と判断したものは設備主管課において作業計画に反映しています。

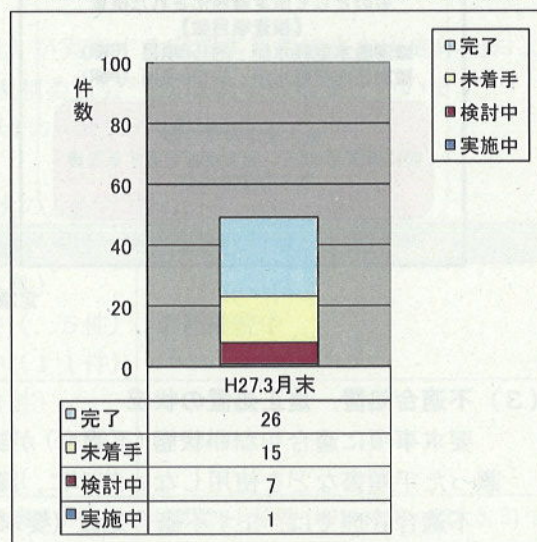
平成27年3月末における予防処置の状況は、以下のグラフのとおりです。

<他施設から得られた知見の予防処置>

前年度末の未完了知見に対する予防処置の実施状況



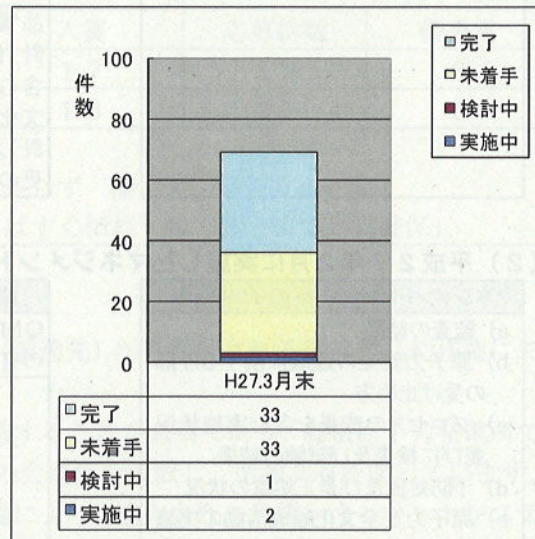
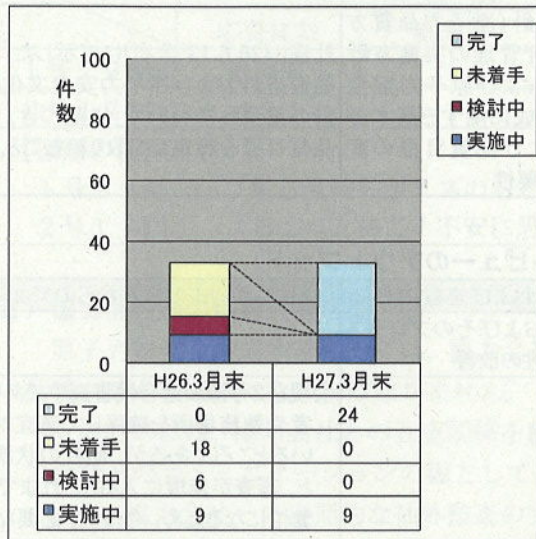
今年度入手した知見に対する予防処置の実施状況



<保安活動および建設活動から得られた知見の予防処置>

前年度末の未完了知見に対する予防処置の実施状況

今年度入手した知見に対する予防処置の実施状況



【グラフの解説】

未着手：予防処置のスクリーニング（予防処置の検討の要否を仕分け）に着手していないもの

検討中：予防処置のスクリーニングが「要」となったもので、設備主管課が予防処置の実施について検討中のもの

実施中：設備主管課が予防処置の実施を「要」と決定し、設備改造等に着手しているもの

完了：予防処置のスクリーニングで「否」となったもの、および設備主管課による予防処置が完了したもの

4. マネジメントレビュー

マネジメントレビューは品質方針および品質目標の達成度合いを評価することにより、方針や目標が形骸化するのを防ぎ、かつ、品質マネジメントシステムの有効性を継続して維持できるようにすることを目的として、トップマネジメント（社長）がレビューを行っています。

マネジメントレビューの実施にあたり、品質マネジメントシステムの有効性に関する情報および品質マネジメントシステムを改善する必要性を判断するための情報やデータの分析結果を集約します。（マネジメントレビューへのインプット）

マネジメントレビューへのインプット情報をもとにレビューを行い、品質マネジメントシステムおよびそのプロセスの有効性の改善などに関する決定事項や処置事項として、トップマネジメント（社長）から改善の指示を行っています。（マネジメントレビューからのアウトプット）

当社では、原則2月および6月に定例のマネジメントレビューを行っています。

(1) 平成26年6月に実施したマネジメントレビューのアウトプット

マネジメントレビューへのインプット
a) 監査の結果
b) 原子力安全の達成に関する外部の受け止め方
c) プロセスの成果を含む実施状況並びに検査及び試験の結果
d) 予防処置及び是正処置の状況
e) 原子力安全文化醸成活動の実施状況
f) 関係法令の遵守状況
g) 前回までのマネジメントレビューの結果に対するフォローアップ
h) 品質マネジメントシステムに影響



決定および処置項目	マネジメントレビューからのアウトプット
QMSおよびそのプロセスの有効性の改善	平成25年度の JANSI ピアレビュー時の指摘事項に対し、策定した改善計画に基づき確実に対応すること。
業務の計画および実施に必要な改善	
資源の必要性	<p>1. 人的資源への対応</p> <p>国際的視野で柔軟に対応できる人材（リーダ、レビュー）を計画的に育成すること。</p> <p>2. 予算への対応</p> <p>新規制適合に必要な資源は適宜適切に投入すること。</p> <p>なお、会社を取り巻く状況を十分に</p>

を及ぼす可能性のある変更 i) 改善のための提案		認識し、原子力安全を最優先として、経費削減を徹底すること。
	品質方針(原子力品質方針(保守管理の実施方針含む)および原子力安全文化醸成に関する基本方針)および品質目標の変更の必要性	社達(H26.6.13 公布)にて示した「原子力品質方針および原子力安全文化醸成方針の見直しについて」に基づき、適切に品質目標を設定して取り組むこと。

(2) 平成27年2月に実施したマネジメントレビューのアウトプット

マネジメントレビューへのインプット	決定および処置項目	マネジメントレビューからのアウトプット
a) 監査の結果 b) 原子力安全の達成に関する外部の受け止め方 c) プロセスの成果を含む実施状況並びに検査及び試験の結果 d) 予防処置及び是正処置の状況 e) 原子力安全文化醸成活動の実施状況 f) 関係法令の遵守状況 g) 前回までのマネジメントレビューの結果に対するフォローアップ h) 品質マネジメントシステムに影響を及ぼす可能性のある変更 i) 改善のための提案	QMSおよびそのプロセスの有効性の改善	なし
	業務の計画および実施に必要な改善	○現在2号機の適合性審査中であり、対応者や執務場所を確保して適宜対応しているところであるが、他社の状況を見ると、審査が佳境に入るとこれまで以上に繁忙になるため、今後は、必要な社内体制を整備して適切に対応すること。 ○原子力安全の向上については、規制対応のみではなく自主的な対策が求められている。JANSIのレビュー結果や新知見を取り入れながら、世界最高水準の原子力安全を目指した取り組みを進めること。
	資源の必要性	現状で問題はないが、必要があれば緊急にでも別途報告を行うこと。
	品質方針(原子力品質方針(保守管理の実施方針含む)および原子力安全文化醸成に関する基本方針)および品質目標の変更の必要性	なし

5. 教育・訓練

品質保証に関する社内の教育・訓練は、「原子炉施設保安規定」に基づいて行う保安教育と、発電所運営に必要な知識技能の修得および維持向上を目的に実施しているものがあり、主な実施状況は次のとおりです。

教育・訓練内容		実績 (H26 年度)
(1) 保安規定に基づく教育訓練	・ 運転員を対象とした教育 ・ 運転員以外を対象とした教育	別紙-3 参照
(2) 技術教育訓練	・ 品質保証関係 ・ 保守管理関係 他	別紙-4 参照

6. その他

(1) 定期検査時の品質保証に係る意識高揚策

定期検査時の品質保証に係る意識高揚策として、品質保証に係るポスターや標語を発電所員および協力会社から募集し、現場に掲示し、品質保証の意識高揚に努めました。

1号機29回定期検査および2号機17回定期検査における標語、ポスターの応募総数等については次のとおりです。

	標 語			ポスター	
	応募総数	優秀賞	入賞	応募総数	優秀賞
1号29回	698	1	17	32	6
2号17回	421	1	13	27	6
【標語の優秀賞】					
1号29回	「焦る気持ちがミスのもと、焦らず 慌てず、ゆとりの作業」				
2号17回	「ちょっと待て！不安に思えばすぐ相談 報・連・相で品質確保」				

(2) 協力会社との情報共有活動

原子力安全を達成するためには、協力会社（調達先）から提供される調達製品や作業における品質も確かなものでなければなりません。

そのためには、協力会社との互惠関係を創造することが重要であり、島根原子力発電所では協力会社とのコミュニケーションの場として次の会議体を設置し、情報共有を図っています。

また、協力会社への定期的な社外監査の実施により、協力会社の品質マネジメントシステムや品質保証活動について確認を行っています。

a. 安全協議会と専門部会

中国電力と構内常駐の協力会社で構成し、災害防止と健康の保持増進を図ることを目的として安全協議会を設置しています。なお、安全協議会の下部組織として次の3つの専門部会を設置し、具体的事項の審議・協議および諸活動を行っています。

平成26年度の活動実績は次のとおりです。

会議体	安全協議会および専門部会での主な活動	開催回数と頻度
安全協議会	<ul style="list-style-type: none"> ○協議会活動の方針・年度計画の審議 ○安全衛生諸施策およびの実施に関する事項の審議 ○安全衛生教育の実施に関する事項の審議 ○放射線管理に関する事項の審議 ○災害時対応に関する事項の審議 ○原子力安全文化の醸成に関する事項の審議 ○その他、以下の協議事項の審議 <ul style="list-style-type: none"> ・外部放射線量等、作業環境測定の実施およびその結果に基づく作業環境の改善に関する事項 ・放射線業務に係る安全衛生教育の実施方法に関する事項 ・事故時の避難、その他の措置に関する事項 ・事故事例および再発防止に関する事項 他 	<p style="text-align: center;">12回 [1回/月]</p>
放射線管理部会	<ul style="list-style-type: none"> ○放射線管理に関する規定の周知 ○被ばく線量の低減化の方策に関すること ○災害時の対応と再発防止 ○放射線管理に関する教育の実施 ○その他放射線管理に関する諸施策 	<p style="text-align: center;">13回 [1回/月] ※定検時[1回/週]</p>
作業安全管理部会	<ul style="list-style-type: none"> ○各種工事に関する安全諸施策の実施 ○各種工事に関する安全教育の実施 ○関係請負人が持ち込む機械、器具等の管理に関する諸施策の実施 ○災害時の対応と再発防止 ○その他各種工事の安全に関する必要な連絡調整 	<p style="text-align: center;">24回 [1回/月] ※定検時[1回/週]</p>

会議体	安全協議会および専門部会での主な活動	開催回数と頻度
衛生 管理部会	○衛生諸施策の実施 ○衛生教育の実施 ○災害時の対応と再発防止 ○その他衛生に関する必要な連絡調整	12回 [1回/月]

※定検時の開催頻度は原則を記載しており、定期検査の状況（定期検査の長期化による主要工事の終了）により各部会で開催を判断しているため実施回数に差がある。

b. 品質保証連絡会の開催

定期検査期間中の品質保証活動に関する事項について、定期的に品質保証連絡会を開催し、品質保証に関し協力会社と情報共有を図っています。

平成26年度の1号機29回定期検査および2号機17回定期検査における活動実績は次のとおりです。

会議体	品質保証連絡会での主な活動	開催回数と頻度
品質保証 連絡会	○調達上の要求事項に係る情報共有（品質保証仕様書等改正時の説明など） ○品質保証活動の標語、ポスターの優秀賞選定、表彰 ○不適合事象や調達先不適合について紹介 ○協力会社の品質保証活動の取り組みについて紹介	1回 ※定検時[1回/月]

※定検時の開催頻度は原則を記載しており、定期検査の状況（定期検査の長期化による主要工事の終了）により連絡会で開催を判断している。

c. 協力会社への監査

原子力発電設備の重要な機器について工事発注（物品の発注含む）している協力会社（5社）に対して、定期的（1回/3年）または必要と判断した場合に社外監査を行っています。

また、上記以外の協力会社については、当社が必要と認めた時に監査を行っています。

平成26年度は、年度計画に基づいて3件の定期監査を実施し、定期監査以外に必要と判断した臨時監査を5件実施しました。

【定期監査】

○品質マネジメントシステムに係る監査（H26.8.29実施）

- ・監査主管部：品質保証部（品質保証）
- ・被監査箇所：a社
- ・監査内容：調達製品に関する品質保証活動が、監査基準（品質保証計画書）に基づき実施されていることを確認した。
- ・不適合事項：0件 ・改善要望事項：1件 ・提言事項：1件

○品質マネジメントシステムに係る監査（H27.1.23実施）

- ・監査主管部：保修部（SA工事プロジェクト）
- ・被監査箇所：b社
- ・監査内容：調達製品に関する品質保証活動が、監査基準（品質保証計画書）に基づき実施されていることを確認した。
- ・不適合事項：0件 ・改善要望事項：0件 ・提言事項：0件

○品質マネジメントシステムに係る監査 (H27.1.29 実施)

- ・ 監査主管部：技術部（放射線管理）
- ・ 被監査箇所：c 社
- ・ 監査内容：調達製品に関する品質保証活動が、監査基準（品質保証計画書）に基づき実施されていることを確認した。
- ・ 不適合事項：0件　・ 改善要望事項：0件　・ 提言事項：0件

【臨時監査】

○品質マネジメントシステムに係る監査 (H26.4.3 実施)

- ・ 監査主管部：保修部（土木建築）
- ・ 被監査箇所：A 社
- ・ 監査内容：当社が発注した工事における品質保証活動が、監査基準（品質保証計画書）に基づき実施されていることを確認した。
- ・ 不適合事項：0件　・ 改善要望事項：0件　・ 提言事項：0件

○プレミックスセメント製造に係る監査 (H26.8.7 実施)

- ・ 監査主管部：発電部（第一発電）
- ・ 被監査箇所：B 社
- ・ 監査内容：充填固化体製作に使用するプレミックスセメントの製造に係る品質管理が適正に実施されていることを確認した。
- ・ 不適合事項：0件　・ 改善要望事項：1件　・ 提言事項：2件

○品質マネジメントシステムに係る監査 (H26.10.7 実施)

- ・ 監査主管部：技術部（燃料技術）
- ・ 被監査箇所：C 社
- ・ 監査内容：溶接工程変更業務調査時の要望事項の確認および当社が発注した工事における品質保証活動が、監査基準（品質保証計画書）に基づき実施されていることを確認した。
- ・ 不適合事項：0件　・ 改善要望事項：0件　・ 提言事項：0件

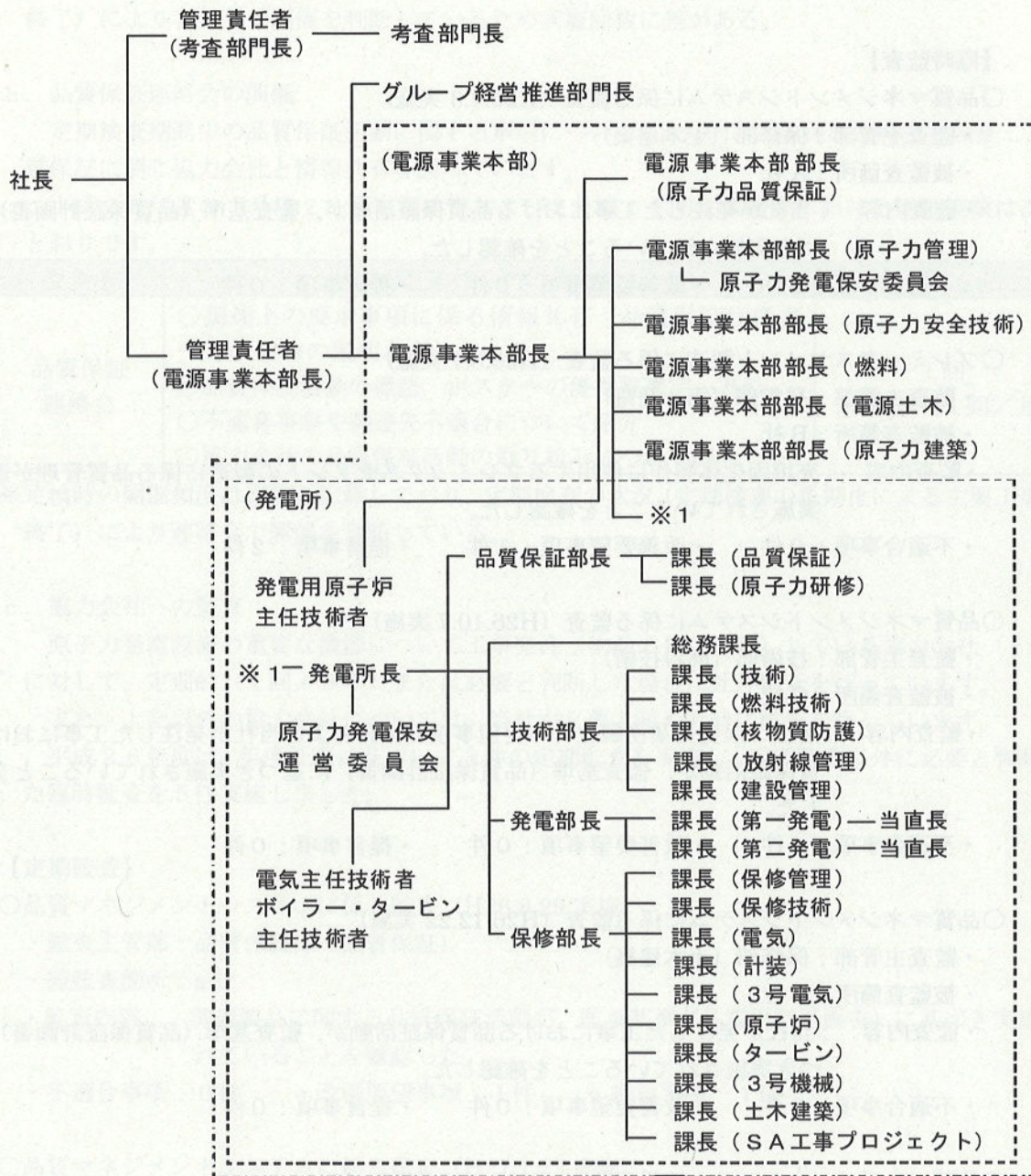
○品質マネジメントシステムに係る監査 (H26.12.22 実施)

- ・ 監査主管部：保修部（土木建築）
- ・ 被監査箇所：D 社
- ・ 監査内容：当社が発注した工事における品質保証活動が、監査基準（品質保証計画書）に基づき実施されていることを確認した。
- ・ 不適合事項：0件　・ 改善要望事項：0件　・ 提言事項：0件

○品質マネジメントシステムに係る監査 (H27.3.25 実施)

- ・ 監査主管部：保修部（土木建築）
- ・ 被監査箇所：E 社
- ・ 監査内容：当社が発注した工事における品質保証活動が、監査基準（品質保証計画書）に基づき実施されていることを確認した。
- ・ 不適合事項：0件　・ 改善要望事項：0件　・ 提言事項：0件

島根原子力発電所 品質保証活動に係る体制



不適合・是正処置の状況

1. 不適合の種類の内訳件数

不適合管理グレード※1	平成26年度	分類	割合
A	1件	人的※2	14%(49件)
B	5件	設備	86%(302件)
C	345件		
合計	351件		

※1 不適合管理グレード

グレードA ・原子炉施設の設備・機器における不具合事象および人的不適合事象のうち、原子力安全に対する影響が大きい事象

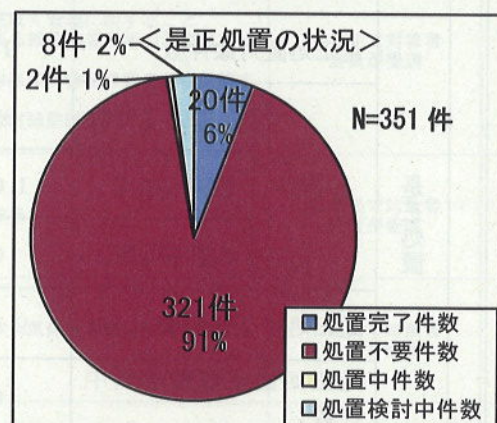
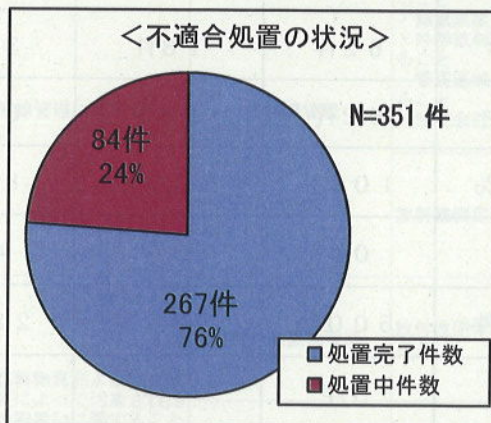
グレードB ・原子炉施設の設備・機器における不具合事象および人的不適合事象のうち、原子力安全に対する影響が比較的大きい事象

グレードC ・原子炉施設の設備・機器における不具合事象および人的不適合事象のうち、原子力安全に対する影響が軽微な事象

※2 要領・手順書等の認識不足、誤記（記入漏れ・誤字・脱字等）等の人的ミスをいう。

2. 不適合処置および是正処置の処置率(H27. 3. 31現在)

件数および処置率		平成26年度発生分	
不適合発生件数		351件	
不適合処置 ※1	処置完了件数	267件	
	不適合処置率	76%	
	処置中件数	84件	
是正処置 ※2	是正処置対象件数	22件	
	(内訳)	処置完了件数	20件
		是正処置率	91%
		処置中件数	2件
	是正処置不要件数 ※3	321件	
是正処置必要性検討中件数	8件		



※1 不適合処置とは、要求事項に適合しない状態（不適合）が認められたものを、当初の要求事項に適合した状態に戻す処置をいう。

※2 是正処置とは、同じ原因で同じ不適合を発生させないための再発防止を図る処置をいう。

※3 事後保全機器（故障が発生した後に修理することが容認されている機器）などの不適合については、再発防止を図る必要がないため是正処置不要としている。

不適合・是正処置の状況(過去分)

1. 不適合の種類の内訳件数

	合計	分類	割合
H22年度	1,009件	人的(※1)	-(※2)
		設備	
H23年度	562件	人的(※1)	12%(68件)
		設備	88%(494件)
H24年度	413件	人的(※1)	13%(55件)
		設備	87%(358件)
H25年度	323件	人的(※1)	13%(43件)
		設備	87%(280件)

(※1) 要領・手順書等の認識不足、誤記(記入漏れ・誤字・脱字等)等の人的ミスをいう。

(※2) 不適合管理グレードの重要度が高いもののみ分類分けを行うこととしていたため全体の割合を算出することはできない。

2. 不適合処置および是正処置の処置率(H27. 3. 31現在)

		H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	
不適合発生件数		1,009件	562件	413件	323件	
不適合処置	処置完了件数	1,004件	558件	409件	308件	
	不適合処置率	99%	99%	99%	95%	
	処置中件数	5件	4件	4件	15件	
是正処置	是正処置対象件数	90件	62件	18件	35件	
	(内訳)	処置完了件数	90件	62件	18件	31件
		是正処置率	100%	100%	100%	89%
		処置中件数	0件	0件	0件	4件
	是正処置不要件数	919件	500件	395件	287件	
是正処置必要性検討中件数	0件	0件	0件	1件		

平成26年度 島根原子力発電所の教育訓練実績【保安教育】 その1:運転員以外対象

保安教育の内容(保安規定)				実施時期 (教育訓練手順書)	教育訓練者数
大分類	中分類	小分類 (項目)	内容		
入所時に実施する教育	関係法令および保安規定の遵守に関すること	原子炉等規制法	原子炉等規制法に関連する法令の概要ならびに関係法令および保安規定の遵守に関すること	入所後 1週間程度	287 (-)
	原子炉施設の構造、性能に関すること	設備概要、 主要系統の機能	原子炉のしくみ ・原子炉容器等主要機器の構造に関すること ・原子炉冷却系統等主要系統の機能・性能に関すること		
	非常の場合に講ずべき処置に関すること		非常の場合に講ずべき処置の概要		
放射線業務 従事者教育	関係法令および保安規定の遵守に関すること		法令、労働安全衛生規則および電離放射線障害防止規則の関係条項	管理区域内において核燃料物質もしくは使用済燃料またはこれらによって汚染された物を取り扱う業務に就かせる時	61 (-)
	原子炉施設の構造、性能に関すること		原子炉、放射性廃棄物の廃棄設備およびその他の設備の構造に関すること		
	放射線管理に関すること		・原子炉、放射性廃棄物の廃棄設備およびその他の設備の取扱いの方法 ・管理区域への立入りおよび退去の手順 ・外部放射線による線量当量率および空気中の放射性物質の濃度の監視の方法 ・電離放射線が生体の細胞、組織、器官および全身に与える影響		
	核燃料物質および核燃料物質によって汚染された物の取扱いに関すること		核燃料物質もしくは使用済燃料またはこれらによって汚染された物の種類および性状ならびに運搬、貯蔵、廃棄の作業の方法・順序		
	非常の場合に講ずべき処置に関すること		異常な事態が発生した場合における応急措置の方法		
	関係法令および保安規定の遵守に関すること	原子炉施設保安規定	保安規定(総則、品質保証、体制および評価、保安教育、記録および報告)に関することならびに関係法令および保安規定の遵守に関すること	3年間で対象者 全員が受講	206 (150)
	原子炉施設の運転に関すること	運転管理	・臨界管理に関すること ・運転上の留意事項に関すること、通則に関すること ・運転上の制限に関すること ・異常時の措置に関すること	3年間で対象者 全員が受講	175 (148)
		保守管理	保守管理計画に関すること	3年間で対象者 全員が受講	187 (144)
その他 反復教育	放射線管理に関すること	放射線管理	・管理区域への出入り管理等、区域管理に関すること ・線量限度等、被ばく管理に関すること ・外部放射線に係る線量当量率等の測定に関すること ・管理区域外への移動等物品移動の管理に関すること ・協力会社等の放射線防護に関すること	3年間で対象者 全員が受講	205 (167)
			放射線測定器の取扱い	3年間で対象者 全員が受講	14 (14)
	核燃料物質および核燃料物質によって汚染された物の取扱いに関すること	放射性廃棄物管理	放射性固体・液体・気体廃棄物の管理に関すること	3年間で対象者 全員が受講	211 (165)
		燃料管理	・燃料管理における臨界管理 ・燃料の検査、取替、運搬および貯蔵に関すること	3年間で対象者 全員が受講	98 (84)
非常の場合に講ずべき処置に関すること		緊急事態応急対策等、原子力防災対策活動に関すること (アクシデントマネジメント対応を含む)	3年間で対象者 全員が受講	201 (146)	

(注) 教育訓練者数の()は年度計画値を示す。

なお、(-)は発電所入所者数、放射線業務従事者数が年度当初は未定のため。

平成26年度 島根原子力発電所の教育訓練実績【保安教育】 その2:運転員対象

保安教育の内容(保安規定)				実施時期 (教育訓練手順書)	教育訓練者数
大分類	中分類	小分類 (項目)	内容		
その他 反復教育	関係法令および保安規定の遵守に関する事	原子炉施設保安規定	保安規定(総則,品質保証,体制および評価,保安教育,記録および報告に関する規則の概要)に関する事ならびに関係法令および保安規定の遵守に関する事	3年間で対象者全員が受講	79 (73)
			原子炉物理・臨界管理	3年間で対象者全員が受講	82 (73)
	原子炉施設の運転に関する事	運転管理	運転管理Ⅰ 運転管理Ⅱ 運転管理Ⅲ	3年間で対象者全員が受講	80 (73)
			巡視点検・定期的検査Ⅰ 巡視点検・定期的検査Ⅱ	3年間で対象者全員が受講	7 (6)
			異常時対応(現場機器対応) 異常時対応(中央制御室内対応) 異常時対応(指揮,状況判断)	6回/年	560 (511)
			シミュレータ訓練Ⅰ (直員連携研修)	1回/年	74 (72)
		運転訓練	シミュレータ訓練Ⅱ (再研修)	1回/年	27 (27)
			シミュレータ訓練Ⅲ (当直管理者研修)	1回/年	18 (18)
			シミュレータ訓練Ⅲ (BTC上級)	3年間で対象者全員が受講	5 (5)
			保守管理	保守管理計画に関する事Ⅰ 保守管理計画に関する事Ⅱ	3年間で対象者全員が受講
	放射線管理に関する事	放射線管理	・管理区域への出入管理等,区域管理に関する事 ・線量限度等,被ばく管理に関する事 ・外部放射線に係る線量当量率等の測定に関する事 ・管理区域外への移動等,物品移動の管理に関する事 ・協力会社等の放射線防護に関する事	3年間で対象者全員が受講	5 (4)
			放射線測定器の取扱い	3年間で対象者全員が受講	83 (73)
	核燃料物質および核燃料物質によって汚染された物の取扱いに関する事	放射性廃棄物管理	放射性固体・液体・気体廃棄物の管理に関する事	3年間で対象者全員が受講	82 (73)
		燃料管理	・燃料の臨界管理に関する事 ・燃料の検査,取替,運搬および貯蔵に関する事	3年間で対象者全員が受講	6 (5)
	非常の場合に講ずべき処置に関する事	緊急事態応急対策等,原子力防災対策活動に関する事 (アクシデントマネジメント対応を含む)	3年間で対象者全員が受講	81 (73)	

(注) 教育訓練者数の()は年度計画値を示す。

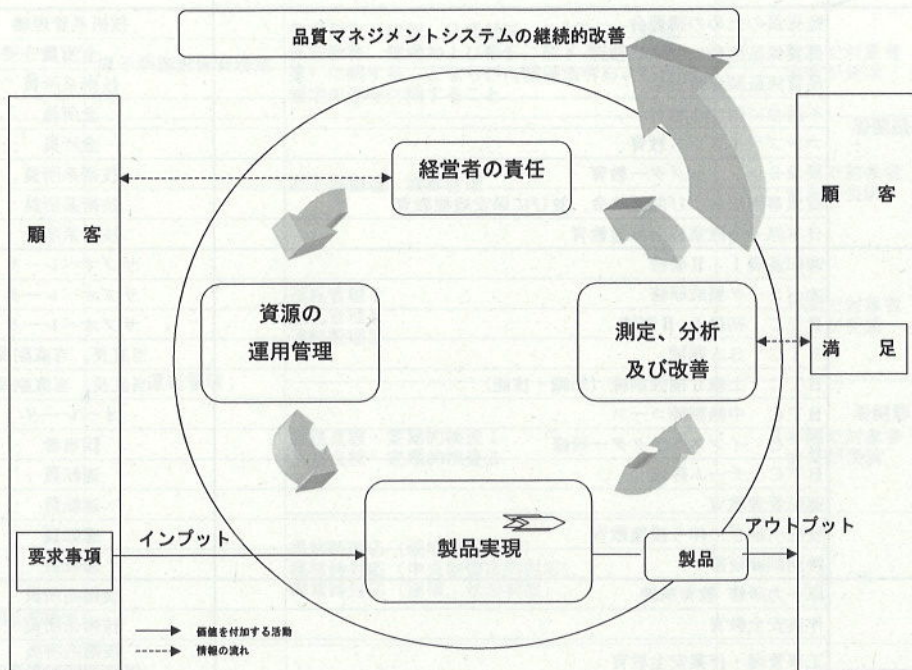
平成26年度 島根原子力発電所技術教育訓練実績表

	教育項目	対象者	教育訓練者数 (人)
品質保証関係	監査員のための講習会	技術系管理職	13
	品質保証活動に関する教育	全所員	135
	品質保証関係講習会	技術系所員	33
	不適合に関する教育	全所員	487
	コンプライアンス教育	全所員	503
	ヒューマンファクター教育	技術系所員	20
	電気事業法および関係法令、並びに保安規程教育	技術系所員	242
	日本原子力産業協会派遣教育	技術系所員	0
運転管理関係	運転基礎Ⅰ・Ⅱ研修	サブオペレータ	10
	オペレータ養成研修	サブオペレータ	4
	BTC 初級Ⅰ・Ⅱ訓練	サブオペレータ	18
	BTC SA訓練	当直長, 当直副長	8
	BTC 上級Ⅱ補強訓練(知識・技能)	当直長, 当直副長	0
	BTC 中級訓練コース	オペレータ	5
	BTC インストラクター研修	該当者	2
	BTC チーム評価	運転員	3 ※1
	運転管理教育	運転員	91
	設備引継ぎに伴う設備教育	運転員	156
	特別訓練研修	運転員	2
保守管理関係	原子力研修 教育訓練	技術系所員	692
	作業安全教育	技術系所員	0
	工事管理・作業安全教育	技術系所員 (保守部門配属者)	31
	定検工程に関する教育	技術系所員	18
	発電所設備に関する教育	技術系所員	18
	溶接事業者検査技術教育	技術系所員	36
	改造工事に伴う設備教育	関係各担当	0
	絶縁油入機器取扱に関する教育	保守管理員, 電気, 3号電気の 絶縁油を取扱う担当者	12
	電気に関する施工管理の教育	電気, 3号電気	33
	保守管理講習会	技術系所員	12
	系統運用関係教育	技術系所員	0
	PET研修	技術系所員	4
	BTC保全/保守研修	技術系所員	2
	原子力保全研修	技術系所員	2
	定期事業者検査教育	定期事業者検査要員	62
	放射線管理関係	定検工事に係る放射線管理教育	放射線作業従事者
放射線障害防止に係る教育		R I取扱者	31
放射線管理教育		放射線作業従事者	69
放射線測定装置取扱訓練		放射線管理	12
化学分析装置取扱訓練		放射線管理	12
放射線管理等に関する講習会		各担当, 放射線管理	8
緊急時における放射線管理員の養成教育		技術部長が指名した者	222
スクリーニング要員養成教育		技術部長が指名した者	21
安全・燃料関係	燃料取替に関する教育	発電部	0
	燃料に関する教育	技術系所員	0
	地震時対策訓練	全所員	15
	情報連絡者通報訓練	特別管理職	36 ※2
	アクシデントマネジメント(AM)教育	技術班	8
	燃料検査事前教育	燃料技術	0
	安全解析および炉心性能解析に関する教育	燃料技術	12
	原子力関係講習会	技術部(放射線管理を除く)	0
	日本原子力研究開発機構派遣教育	技術系所員	2
	原子力災害対策支援資機材操作訓練	技術系所員	14
各担当個別の業務 主管教育訓練	業務主管教育	技術系所員	125
合 計			3,202

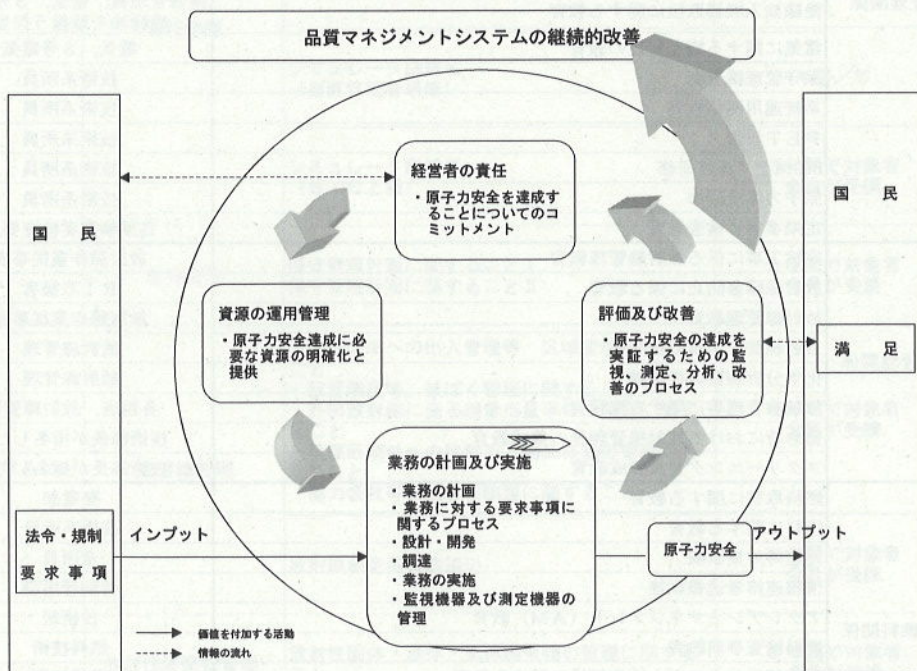
※1:実施回数

※2:グループ数

合計には含まない



ISO9001モデル



ISO9001モデルを原子力安全に適用したモデル

原子力発電所の安全確保のための品質マネジメントシステムのモデル

＜出展＞ 社団法人日本電気協会「原子力発電所における安全のための品質保証規程」
(JEAC4111-2009) の適用指針—原子力発電所の運転段階—JEAG4121-2009」